

# 苫小牧東ロータリークラブ

TOMAKOMAIEAST ROTARYCLUB



## ～会報～ 1月号

例会日 木曜日 12:30 第2例会 18:00  
 例会場:グランドホテルニュー王子 TEL 31-3111  
 ホームページ: <https://toma-east-rc.com/>

「苫小牧東ロータリークラブ会長方針」  
**“共に考え、共に行動しよう”**



### ～職業奉仕月間～

#### 【1月プログラム予定】

- 第1例会(1日) 休会(定款第7条第1節)
- 第2例会(8日) 会員卓話 堀暢希 会員
- 第3例会(15日) 夜間例会  
 会員・家族・留学生新年会
- 第4例会(22日) クラブ協議会(上期報告)
- 第5例会(29日) 会員卓話 南沢雄二 会員
- ☆イベント(30日) 交通安全講話

#### ～今月の誕生祝い～

斎藤英明会員 石澤智会員

#### ～今月の創業祝い～



#### ニコニコの内容

#### 出席数・率

財団寄付BOX	23,516円	1/8	22名 出席率 78.57%
米山BOX	13,421円	1/15	27名 出席率 96.43%
親睦BOX	23,256円	1/22	22名 出席率 75.86%
ニコニコBOX	143,260円	1/29	23名 出席率 82.14%
<b>ニコニコ</b>			
総額	203,453円		



#### 【2月プログラム予定】

～平和と紛争予防/紛争解決月間～

- 第1例会(5日) 会員卓話 西條利江 会員
- 第2例会(12日) 夜間移動例会 新会員歓迎会
- 第3例会(19日) ゲスト卓和  
 MIYA STAFFINGRPO事業本部  
 営業一部コンサルティング営業部 練合知里様
- 第4例会(26日) ゲスト卓和  
 松下ひでき事務所 松下ひでき様

#### 担当

- 会長 南沢 雄二
- 会長エレクト 山田 亮太
- 幹事 緒方 康人
- 会計・副幹事 堀 暢希
- 会報雑誌・広報委員 鍋島 芳弘

#### 事務局

苫小牧市表町1丁目4-5 日商連ビル5階  
 月～木曜日の10:00～16:00  
 Tel 0144-35-3344 Fax 0144-33-7744  
 e-mail: east\_toma2510@song.ocn.ne.jp  
 事務局 松岡かおり

## 会長挨拶

新年の挨拶と共に、2025-26年度の下期第1回例会の開会を宣言しました。上期の運営において、奉仕活動や親睦行事が会員の協力により無事に完了したことへの謝辞を述べ、下期のスタートに向けた意欲を示しました。

大きなトピックとして、今期より新会員として長沼啓示氏の加入を報告し、共に学び、行動する仲間として、クラブ活動への積極的な参加と活躍への期待を寄せました。

また、年度スローガンである「共に考え、共に行動しよう」を改めて掲げ、下期は各種行事や奉仕活動の実施に加え、次年度に向けた準備も本格化させていく方針を共有しました。最後に、苫小牧東ロータリークラブの発展と、会員一人ひとりの健康、そして実り多い一年となることを祈念して、下期最初の挨拶を締めくくりました。

## 会員卓話：堀 暢希 会員

堀会員は、年末から年始にかけて京都の三つの聖地（伏見稲荷大社、鞍馬山、貴船神社）を参拝した体験を通じ、そこから得た気づきと2026年度に向けた決意を語りました。

最初に向かったのは、商売繁盛の神様として知られる伏見稲荷大社です。堀氏は毎年、一年間貯めた貯金箱を抱えて参拝することを恒例としています。その貯金箱には約11万円分（10円玉換算の容積）の硬貨が詰まっており、重みとともに一年間の感謝を神前に届けるため、山頂の末広大神まで登り切ります。二宮尊徳の大きな目標を達成するには、日々の小さな努力や地道な行動を疎かにせず、継続することが重要である、という精神を大切にしている語りました。



次に訪れた鞍馬寺本殿前にある「金剛床」は、宇宙のエネルギーが集中するパワースポットとして有名で、多くの参拝客が空に向かって手を広げる光景を紹介しました。また、地質が硬いために根が地表を這う「木の根道」を通り、厳しい環境下でたくましく生きる樹木の姿に、逆境を乗り越える「しなやかさと強さ」を感じたと語りました。さらに、金運の聖地とされる「魔王殿」でも、会員一同の発展を祈願しました。

また、鞍馬山を越えて辿り着いたのは、水の神様を祀る貴船神社です。ここは「結社（ゆいのやしろ）」に代表されるように、縁結びの神としても信仰されています。堀会員は、貴船神社が「絵馬」の発祥の地であるという歴史を紹介しました。かつては生きた馬を奉納していましたが、それが簡略化され、板に描いた馬を奉納する現在の形になったといます。同会員は名物の「水占いみくじ」を引き、水に浸すと浮かび上がる「大吉」の結果に、2026年の幸先の良さを確信しました。

結びに、午年にかける想いとして、次の3点を挙げました。

- 商売繁盛：馬のように勢いよく、軽やかに前進する一年にすること
- 精神力：困難に直面しても、鞍馬の修行のように正面から受け止め、自らの勇気で道を切り拓くこと
- 良縁：ロータリークラブの仲間や先輩方への敬意を忘れず、共に歩むこと

堀会員は、これら三つの聖地巡礼で得た「商売繁盛」「精神力」「良縁」という三つの気づきを胸に、会員全員が健康で笑顔の絶えない、実り多い2026年を過ごせるよう祈念し、卓話を締めくくりました。

# 1月15日(木) 第3例会 夜間例会

～会員・家族・留学生新年会・忘年会～

## 会長挨拶

はじめに、令和6年の新年会へ参加いただいた12名の留学生（北洋大学5名、苫小牧高専7名）に対して、歓迎の意を表しました。今期の方針「共に考え、共に行動しよう」に基づき、英語で「Let's eat, drink, and talk together」と呼びかけ、会場の親睦を深めることを提案。極寒の苫小牧だからこそ人々が集まり、会話が弾むのだとポジティブに捉え、新しい一年の幕開けを明るく祝いました。

## ○乾杯の挨拶

鈴木会員は、一年の始まりにあたり、今日この場に集まった全員が健やかに過ごせるよう、出席者の健康とさらなる多幸を祈念する言葉を贈りました。国際色豊かな会場の雰囲気を楽しみながら、「乾杯！」と唱和。会員同士の親睦と国際交流が深まる一年のスタートにふさわしい、幕開けとなりました。



## ○留学生の自己紹介

国籍や学年、専攻、今後の進路、ニックネーム、好きな食べ物、驚いた日本の習慣などが紹介されました。会員からは日本（苫小牧）での生活に関する質問が飛び、活発な対話が行われました。

主な内容は、次のとおりです。

- ・気候の差：モンゴル出身の学生は「母国はマイナス40度になることもあるので、苫小牧は暖かくて快適」と話し、会場から驚きの声が上がりました。一方でマレーシア出身の学生は「母国は30度以上あるので、苫小牧は非常に寒い」と語り、それぞれの故郷との対比が面白く語られました。
- ・ミャンマーの伝統的化粧：ミャンマーの学生の頬に塗られた黄色い粉について、会員が質問しました。これに対し、引率者が「タナカ」という伝統的な植物由来の化粧兼日焼け止めであることを解説。異文化への理解が深まる一幕となりました。
- ・冬の苦労：多くの学生が、冬の「道の滑りやすさ」や「バスの少なさ」に苦労していると答えました。特に自転車が使えない冬場に1時間かけて歩いて買い物やアルバイトに行くといったお話に、会員から同情と感心の声が寄せられました。

この留学生紹介は、単なる形式的な挨拶に留まらず、学生たちのプライベートな一面や苦労話、そして進学という輝かしい未来への報告が含まれた、非常に中身の濃い時間となりました。苫小牧という北の大地で学ぶ彼らの真摯な姿勢が、ロータリークラブの会員たちに大きな刺激と喜びを与えました。

## ○スペシャルマジックショー

小児科医でありロータリーOBでもある高柳様が、ゲストマジシャンとして技を披露しました。何もない箱から生きた白い鳩を出したりと、本格的なステージマジックを披露します。また、留学生を壇上に上げて「壺の中に人間を閉じ込める」というコミカルな手品を行ったり、最後には会場全員にトランプを配り、全員が手元で同じ結果になる参加型のマジックを主導したりと、会場を巻き込んだ多くのマジックを披露しました。高柳先生は「子どもたちを診る医師としての顔を持ちながら、本格的な手品で参加者を驚かせ、笑顔にさせていただきました。 **本当に、ありがとうございました！**

## ○会員と留学生の交流場面



## ○スペシャルマジックショー



○締め挨拶は、児玉会員が務めました。冒頭、新年の祝辞と共に、参加した12名の留学生へ感謝を述べました。会長挨拶に触れつつ、本日は「家族新年会」と銘打ちながらも家族の出席がなかったことをユーモアたっぷりに指摘し、会場の笑いを誘いました。



# 1月22日(木) 第4例会(1)

## 🔪 会長挨拶

南澤会長は冒頭、上期の活動報告例会にあたり、会員一人ひとりの協力によって多くの活動が無事に進められたことに感謝を述べました。上期の積み重ねを大切に、次につながる活動をさらに進めていきたいという意欲を示し、各会員がそれぞれの立場で今後の活動への思いを共有してほしいと語りました。

## クラブ協議会（上期報告）

### 1. 会員増強・維持委員会 / 未来ビジョン策定委員会

会員増強・維持については、上期に2名の新入会員を迎えましたが、1名の退会があり、年度累計で純増1名（下期入会1名を含む）という状況です。今後も継続的な増強を目指し、環境作りを進めています。未来ビジョン策定は、会員が主体的に未来を描き行動につなげるクラブ作りを目的としています。上期には「今後クラブとして何をしていきたいか」をテーマに意見交換の場を設け、ロータリーらしい奉仕のあり方や地域との関わりについて、世代を超えた率直な議論を行いました。具体的な形になるのはこれからですが、共に考えるプロセスを実践できたことは大きな成果と考えています。

### 2. 公共イメージ部門（情報・研修、プログラム、会報、ICT）

情報・研修委員会は、新入会員への情報提供（インフォーマルミーティング）や、2025年規定審議会の結果に伴う定款・細則の作成、メールによる「ロータリーミニ情報」の発行など、会員の理解促進に努めました。プログラム委員会は、外部卓話を2ヶ月に1～2回のペースで実施し、会員同士の親睦を深める夜間例会も企画しました。会報委員会は、活動内容を分かりやすく伝える会報「しらおい」を定期発行し、外部への発信も行いました。ICT委員会は、地区ホームページの推進やMy Rotaryの登録・利用サポートを行っており、4月にはさらなる活用に向けた卓話を予定しています。

### 3. クラブ管理運営部門（SAA、出席、親睦）

SAA（会場監督）は、例会の秩序維持と品位保持に努め、3ヶ月ごとの席替えを通じて会員相互の親睦を促しました。急な欠席等にも各委員会と連携してスムーズに対応しました。出席委員会は、例会ごとの出席状況報告とメイクアップの推進を行い、上期の100%出席者は16名となりました。親睦委員会は、7月のハスカップ狩り&ジンギスカン、9月のパークゴルフ大会、12月の家族クリスマス会・忘年会など、会員とその家族が交流を深める多彩な親睦行事を企画・運営し、多くの参加者を得て親睦の実を挙げました。

### 4. 奉仕プロジェクト部門（社会、職業、国際、青少年）

社会奉仕は、市内看板の清掃や交通安全講話、赤い羽根共同募金など地域に根ざした活動を実施しました。職業奉仕は、中高生を対象とした職場体験（スガノオートでの実施）の支援や「四つのテスト」の唱和を行いました。国際奉仕は、グアムでの「クリスマス・ドロップ作戦（南太平洋諸島への物資投下支援）」に会長らが参加したほか、道の駅でのポリオ撲滅募金活動を実施しました。青少年奉仕は、バドミントン大会の開催支援や、少年少女合唱団への活動資金贈呈など、地域の子供たちの成長を支える活動を継続しました。下期も引き続き、絵本の読み聞かせ活動などを予定しています。

# 1月22日(木) 第4例会(2)

## 5. ロータリー財団・米山奨学部門

財団部門では、11月に石丸地区委員長を招いて卓話を実施し、理解を深めました。寄付については、年次基金（1人150ドル）、ポリオプラス（1人30ドル）を目標に推進し、財団ボックスへの拠出も継続しています。南沢・山田両会員がポール・ハリス・フェローの認証を受けました。米山部門では、三浦地区委員長による卓話（10月）を実施したほか、普通寄付・特別寄付を推進しました。また、奥野・青山両会員が「米山功労賞」を受賞しました。今後も、教育支援や環境保護などロータリーの使命達成に向けた支援を継続していきます。

## 6. 友好クラブ部門

友好クラブ部門では、地区行事や近隣クラブの例会・行事への参加を通じて、他クラブとの情報交換や交流を積極的に行いました。特に第12グループ（近隣5クラブ）の親睦ゴルフコンペへの参加などを通じ、グループ内の連携を強化しました。また、国際奉仕プロジェクトを通じた海外クラブとの交流は、ロータリーの国際的なネットワークを再確認し、相互理解を深める貴重な機会となりました。今後も、創立記念行事や各クラブの周年事業への参加を通じ、友好関係の維持と発展に努めていきます。



## 🍷 会長挨拶

1月の具体的な活動予定として、苫小牧工業高校での交通安全講話や、ロータリー・フェロー・ワークショップへの参加（6名）に言及しました。年度後半はこれまでの活動を振り返りつつ、次年度へ繋げていく重要な時期であり、今年度のクラブ方針である「共に考え、共に行動しよう」という言葉を改めて共有し、会員一人ひとりが主体的に関わることで実りあるクラブ運営を進めていきたいとの決意を語りました。最後に、厳しい寒さの中での体調管理を気遣い、有意義な例会となるよう願って挨拶を締めくくりました。

## 会員卓話：南沢雄二 会員 ～奉仕の理想と奉仕の理念～

ロータリーにおける「奉仕」の本質を再定義し、それが仕事や人生にどう関わるかを示しました。主な内容は以下のとおりです。

### 1. 二大標語は同じベクトルである

ロータリーには「超我の奉仕」と「最も良く奉仕する者、最も多く報いられる」という二つの有名な標語があります。これらは「自己犠牲」と「利益」という相反する概念ではなく、実は同じ方向を向いています。「より良い人間関係を築くことで、結果として社会も事業も良くなる」という一本の軸でつながっているのです。

### 2. 「サービス」と「セルフ」の再解釈

**サービス（奉仕）**：日本語で「奉仕」と言うと無償のボランティアや自己犠牲を連想しがちですが、英語の「Service」はもっと広く価値の提供、相手のために働くこと、信頼関係の構築を指します。商取引、教育、家庭など、あらゆる場面に含まれる概念です。

**セルフ（我）**：「超我」の「Self」には「自分自身」だけでなく「利己心やわがまま」という意味があります。「超我の奉仕」とは、自分を捨てることではなく、「利己心よりも価値提供（サービス）を上位に置く」というあり方を意味します。

### 3. 「To Do」から「To Be」へ

奉仕には、次の二つの側面があります。

- **To Do（やること）**：ゴミ拾いや寄付など「良いことをする」こと
  - **To Be（あり方）**：「良い人になる」「悪いことをしないを増やす」こと
- 例えとして、私たちが一日中ゴミを拾っていても、街中の人々がゴミを捨て続けていけば街は綺麗になりません。大切なのは「ゴミを捨てない人（To Be）」を増やしていくことです。ロータリーは、単に良い活動をする団体ではなく、良い人が増える社会を作る「運動」なのです。

### 4. インテグリティ（真摯さ・誠実さ）

ロータリーが重視する「インテグリティ」とは、仕事の顔、社会の顔、家庭の顔をバラバラにしない（ダブルスタンダードをやめる）ことです。良いことを言うのは簡単ですが、「悪いことをしない」を徹底することは難しい。ロータリーはその原理を学ぶ場でもあります。

奉仕の理想は、単なる理想論ではなく、現実近づけていくための「原理」です。大切なのはロータリーに関わった人がどう変わるか。会員がロータリーで判断基準が整った、信頼が増して取引が広がったと実感できるような「To Be」の変化が起きれば、クラブはより強く魅力的なものになると述べ、卓話を締めくくりました。



# 1月のイベント30日(金)

～ 当クラブ主催：交通安全講話（北海道苫小牧工業高等学校）～

## 🔪 小山校長先生のご挨拶

就職や高等教育を控えた学生に向けて、「運転免許証の取得は貴重な財産であると同時に、重大な責任も伴います。この特権を誤用すると、深刻な事故、人命の損失、そして甚大な物的損害など、悲惨な結果につながる可能性があります」と語りかけ、学生たちに、免許取得者としての新たな役割の重大さを認識し、責任を慎重に果たすよう促しました。今日の交通安全講話は、学生たちの将来と社会の安全にとって不可欠であることを強調し、内容を心に留めるよう話し、挨拶を締め括りました。

## 🔪 南沢会長挨拶

社会へ出る皆さんは、自らの行動が周囲に与える影響を深く自覚し、本日の講話を自分事として捉えてほしいと訴えました。交通ルールを守ることは、自分自身の未来を守り、社会をより良くすることに直結すると強調しました。最後に、苫小牧警察署の川原氏を講師として紹介し、安全への強い意識を持って講習に臨むよう呼びかけました。



小山校長先生



南沢会長



苫小牧警察署  
川原康平様 ご協力  
ありがとうございました！